「社会人基礎力」育成のための「協働型サービスラーニング」の実践

The trial of the educational program which tackles by a local contribution volunteer organization and collaboration for the purpose of training of "basic ability to work in society"

川田　博美[*1]・稲吉由味子[*2]・千葉みどり[*3]
Hiromi　KAWADA[*1]
Yumiko　INAYOSHI[*2]
Midori　CHIBA[*3]
*1 名古屋女子大学短期大学部
*1 College of Nagoya Women's University
*2 愛知工科大学自動車短期大学
*2 Aichi University of Technology Automotive Junior College
*3 地域貢献ボランティア協会
*3 Volunteer Association of Regional Contribution
Email: kawada@nagoya-wu.ac.jp[*1]

あらまし：「協働型サービスラーニング」の多くが、「学内での学び」を基にして、学生の「自発性」と「ボランティア精神」による「学外での学び」を保証する取り組みであるが、本学科のプログラムの特徴は、「社会人基礎力」の項目により決めた「選択パターン」を設定したうえで学外での活動における協働型サービスラーニングを実践している点にある。さらに、2014 年度からは、学びの場としての『街なか・サテライト（アクティブ・キャンパス）』を学外に求め、本学科各コース専修者としてふさわしい専門性の保証と学生個人の能力アップを目指した『生活学科アクティブ・ラーニング・プロジェクト』を展開し始めた。生活系短大生を対象とした「協働型サービスラーニング」の手法の導入による「社会人基礎力」育成のためのプログラムの展開実験の概要と方向性を報告する。

キーワード：短大教育，協働型サービスラーニング，社会人基礎力育成，アクティブ・ラーニング

１．はじめに

「社会人基礎力」の育成と関連付けた「アクティブラーニング」プログラムとして、これまで、本学科（名古屋女子大学短期大学部生活学科）では、他大学（愛知工科大学自動車短期大学）や地域団体（地域貢献ボランティア協会）との『協働型サービスラーニングの実施』を目標として、教科「バーチャル・カンパニー演習」をカリキュラム内に設置して、地域貢献のためのイベントの運営と実施をその教科の内容として取り組んできた[(1)～(9)]。

2011 年度の入学生に対しては、「協働型サービスラーニング」の強化を図るために、地域貢献ボランティア団体と連携して、セミナーによる「ボランティア」と「社会人基礎力」の育成プログラムと「学外でのボランティア活動実践」プログラムとしての地域貢献ボランティア活動への課外活動との仲介を実験した。この取り組みに参加する学生には、いわゆる「サービスラーニング」の核心の 1 つともいえる学生本人の自発的な参加が必要である[(4)]。2012 年度からは、これまで 1 つのテーマで実施してきたこの取り組みに、複数のテーマを設定することによる、プログラムの選択制を導入した。教育目標を「社会人基礎力」の育成として明確にし、そこに示された「3 つの能力」によりテーマを設定し、関連する教員がそれぞれ示した内容により、履修するプログラムを選択するものである[(7)]。約 120 名を対象としたその実験を経て、2013 年度からは、10 名の教員によるテーマを約 170 名が選択して取り組む 1 年次必修科目『地域貢献演習』をスタートさせた[(8)]。さらに、2014 年度より地域貢献ボランティア団体と連携して新たな「アクティブラーニング」の学習環境を提供する、いわゆる「街なかキャンパス」をスタートさせた[(9)]。

２．『社会人基礎力』を育成する教科『地域貢献演習（入門・基礎・実践・応用）』

教科『地域貢献演習（入門・基礎・実践・応用）』は、短期大学での正課の授業で「社会人基礎力」を育むための実践的な取り組みにリンクした形で 2013 年度よりの新カリキュラムで設定したものである。1 年次の 2 セメスタは、必修科目として短期大学部生活学科（生活情報コース、食生活コース、生活創造デザインコース）の学生が全員履修する。

教科『地域貢献演習』を「協働型サービスラーニング」の場としていく目的と期待されるその効果としては、

(1) 短大の 1、2 年生を対象に実施することで、学生一人ひとりが自らにとって将来必要な学習の意味を確認し、地域や社会問題への関心を広げ、グループでの協同学習で基礎的な力をつける。

(2) 実践的な情報技術教育への導入教育としてモ

チベーションを高めるとともに、ＩＴ環境への理解を深め、より実践力の高い専門職養成を図る。

(3)大学と地域団体との連携によるコミュニケーション教育プラットフォームを構築することで、効果的な協働型サービスラーニングのプログラム開発および評価体制を構築する、ことなどがある。これらの実現のために、あえて、地域団体や関連団体との連携の強化を図り、この教科の授業展開が、単に「学生間のコミュニケーション力強化」だけに終わることなく、実働する社会との関わりを持たせつつ「社会とのコミュニケーション力強化」プログラムとなるように授業展開の実験を重ねていく必要がある。

３．街なかキャンパス『COCO キャンタウン』

このプログラムは、教科『地域貢献演習（入門・基礎)』の必修科目としての取り組みを終えた 2 年次の学生を対象として、2 年次には選択科目となる同教科の後半（実践・応用）で「アクティブラーニング」プログラムの学びの場として提供するものである。本学科の各コースで提供する特徴的な『生活学科アクティブ・ラーニング・プロジェクト』プログラムの中の一つでもあり、本学科各コース専修者としてふさわしい専門性の保証と学生個人の能力アップを目指している。

４．『地域貢献演習』での 3 つのプロジェクト

2013 年度からの新生活学科では定員 140 名がこの教科を履修させ「社会人基礎力」を育成する。そこで、2012 年度の旧科目の履修者、1、2 年合わせて 125 名に対し、「社会人基礎力」をもとにした 3 つの選択パターンを設定し、運用実験を展開することにした。

これまでは、毎年 2 月に地域の子供たちを対象として実施するイベントの「春待ち小町」のみをイベント企画と運営の目標として履修者全員で取り組ませ、「社会人基礎力」の 3 つの能力と 12 の能力要素を育むこととしてきたが、2012 年度より新たに 2 つのプロジェクトを設定し、3 つのプロジェクトを「社会人基礎力」の 3 つの能力とそれに伴う能力要素に結び付けることにした。学生に選択を促した 3 つのプロジェクトは次のとおりである。

①前に踏み出す力（アクション）を育むことを目標とする「セルフ・セレクト・プロジェクト」(地域貢献活動参加型サービスラーニング)

②考え抜く力（シンキング）を育むことを目標とする「オリジナル・プランニング・プロジェクト」（教員協働型サービスラーニング）

③チームで働く力（チームワーク）を育むことを目標とする「春待ち小町プロジェクト」(地域団体協働型サービスラーニング)

５．おわりに

「サービスラーニング」とは、1980 年からアメリカで始まった教育活動の一つであり、「社会活動を通して市民性を育む学習」であり、学生がボランティア活動の経験を授業内容に連結させ、学習効果を高めるとともに、責任ある社会人になるために行うボランティア活動といえる。学生が直接、自分自身で意味ある経験をし、その経験を教員の指導のもと熟考し、ふりかえり、分析する学習方法である。ボランティアは、自発的な活動であり第三者の評価はない。しかし、サービスラーニングは、あくまでも教育活動の一環であり、授業として評価を伴う。このように、大学教育としてカリキュラムに位置づけられた評価を伴う点で、ボランティアとサービスラーニングは異なる。その意味で、その評価基準をどこに置くのかが課題となるが、それを経済産業省の『社会人基礎力』に求めようとする試みである。地域団体を第三者とした評価のための仕組み作りも進めている。また、このプログラムにおいては、学生が地域社会の一員として、自分たちに何ができるか、「気づき」をさせることも必要となる。

参考文献

(1)川田博美、箕浦恵美子：“協働型サービスラーニングの実現に向けての教育システム構築の可能性”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第 57 号（2011）
(2) 川田博美、箕浦恵美子、佐藤優：“協働型サービスラーニングを目指す教科に求める学習効果”、教育システム情報学会第 36 回全国大会講演論文集（2011）
(3) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり：“地域貢献ボランティア活動とリンクした「社会人基礎力」を育成する教育プログラム導入の試み”、教育システム情報学会第 36 回全国大会講演論文集（2011）
(4) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり：“「社会人基礎力」の育成を目的として地域貢献ボランティア団体と協働で取り組む教育プログラムの試み”、教育システム情報学会第 37 回全国大会講演論文集（2012）
(5)川田博美、箕浦恵美子：“「協働型サービスラーニング」をめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教育プログラムとしての可能性”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第 58 号（2012）
(6) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり：“「社会人基礎力」の育成を目的として地域貢献に取り組む教育プログラムの試み”、教育システム情報学会第 3 回研究会講演論文集（2013）
(7)川田博美：“協働型サービスラーニングにより「社会人基礎力」養成をめざす教科における「選択パターン」の導入”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第 59 号（2013）
(8) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり:“「社会人基礎力」の育成を目的とする教科『地域貢献演習』の展開”、日本教育情報学会　第 30 回年会演論文集（2014）
(9) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり：“短大における街なかキャンパスでのアクティブラーニングの試み”、教育システム情報学会第 39 回全国大会講演論文集（2014）